

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「南木曽ろくろ細工」をもっと知ってもらうための看板・衣装の整備
事業主体 (連絡先)	南木曽ろくろ工芸協同組合 代表理事 小椋 一男 (0264-58-2130)
事業区分	(6) 産業振興・雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,884,704円 (うち支援金:1,458,000円)

事業内容

- ・場所 木曽郡南木曽町吾妻 木地師の里 周辺
- ・規模 案内看板整備2基、スタッフジャンパー50着、木地師の白装束7着ジャンパーに NAGISOROKURO ロゴマークを刷り込み、ブランド力としての魅力を発信した。
- ・活用内容 観光客の目にも、ここが木地師の里だと認識できるデザインで看板整備を行い、スタッフも統一的なジャンパーで木地師の里、ろくろ組合のブランド力をアピールし、白装束も工芸街道祭りで使用し、展示販売会等でも積極的に活用し、お客の目を向ける努力をした。



【 工芸街道祭りの様子 】

【目標・ねらい】

- ①工芸活動祭りへの入込数の増加
- ②観光客の増加
- ③ろくろ組合の統一感のアピール

事業効果

- ①組合加盟店舗が参加して行う展示販売会や11月初旬に行われる、工芸街道祭りでは積極的に統一感を出し、多くの方々の目にとまる機会を作りましました。
- ②南木曽ろくろの産地であることをお客様に認識いただき、木地師の里（工芸街道祭り）を訪れるお客様が大幅に上昇した。昨年度に元気づくり支援金で製作した南木曽町に行きたくなる「南木曽ろくろ細工」パンフレットの効果もあった。
- ③マイカーで訪れる観光客数の低下に歯止めをかけるべく、魅力あふれる産地となるような看板表示とジャンパーを製作し、統一感をアピールした。

※自己評価【B】

【理由】

- ①工芸活動祭りへの入込数が30%以上増加
- ②観光客のろくろへの関心が高まり増加した。
- ③ろくろ組合員の結束力が高まった。

今後の取り組み

今回の事業は、地道ではあるが限られた財源で最大限の効果を発揮するためにとっても必要なこと（統一感を持ってコンセプトを貫くために必要）と考えた。今後は「町内の他の観光地への案内充実（南木曽山麓周辺の案内）」、お客様に好印象をもっといただける「衣装によるおもてなし」を実施し災害の風評被害に冷え込む木曽地域全体の活気を取り戻していきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある